

学長式辞

桜の開花が報じられ、すっかり春らしくなってきました。

本日、ここに、平成 28 年度入学式を挙げていくことは、この上ない喜びであります。

入学生のみなさん、ご入学おめでとうございます。全教職員を代表して、心からお祝いを申し上げます。そして、これまでみなさんを支え成長を見守ってこられたご家族のみなさまにも、心からお慶びを申し上げます。

また、ご来賓の皆様におかれましては、ご多用のところご臨席賜り、誠にありがとうございます。

ただいま、大学 272 名、短期大学部 181 名、計 453 名の入学を許可いたしました。みなさんは、今から、兵庫大学、兵庫大学短期大学部の学生です。今は、緊張感、不安、期待を抱きながら、この場におられると思いますが、これからの学生生活では、初心を忘れず、充実した学生生活を築かれるように願っています。

ところで、私立大学には、大学を設置したときの理念としての建学の精神があります。

本学の建学の精神は、聖徳太子の「十七条憲法」第一条に示された「和」に求めています。相睦み和らぐことを大切に、それを人間形成の根幹に据えています。この建学の精神である「和」は、私たちが、社会生活を送り、人間関係を築いていくうえで、とても大切なことです。

本学では、みなさんが、建学の精神についての認識を深めるよう、授業をはじめ、さまざまな機会を設けています。在学中は、このような機会にも積極的に参加し、建学の精神を理解し、人間としての魅力を高めていただきたいと思います。

さて、みなさんが、これから学生生活を送るうえで心に留めていただきたいと思いますことを三つ申し上げます。

一つ目は、大学での学び方についてです。

大学では、これまでの学びのスタイルを組み直すことが大切です。

これまでの学びは、どちらかといえば、すでに学問的に真理であるとされている「ほんとうのこと」をしっかりと学ぶこと、いわば「正解」に沿って勉強すること、記憶することが多かったと思います。大学での学びにおいても、専門領域の「基礎・基本」については、正解に沿って学ぶことが求められます。それも、一つひとつを、本当の意味で「わかる」ことが大切であり、知識を定着させることが必要です。わかることで世界が広がり、知ることの

喜びとなり、さらに知的好奇心が惹き起こされ、次の新しい学びにつながっていきます。

一方、大学での学びにおいては、学問上の問題や社会のさまざまな課題に対して考えていくプロセス自体が、非常に大切になってきます。自分の知らないことに目を向け、自分で問題をみつけ、その解決に向けて考える、そのようなプロセスや認識の仕方を学ぶのが、大学での学びです。その学びの中で、物事の本質を見極める能力が培われていきます。

また、学び方においては、主体的に学ぶことが大切です。アクティブラーニングは、高校でも取り込まれていますが、大学においても重視され、実践されています。アクティブとは、能動的な、という意味ですから、アクティブラーニングは能動的な学びという意味になります。具体的には、グループで対話や討論をすること、ディベート、グループワーク等による問題解決型の学修をさします。この問題解決型の学修をPBL（Project-based-learning）といいます。チームで協力して一つのものをつくりあげる力、答えのない問題に対し創造性を発揮して考え抜く力、多様な状況に柔軟に対応し、目標に向けて粘り強く取り組む力が身につくといわれています。大学はこのような主体的な学びをしていくところなのだと認識し、しっかりと大学生生活に取り組んでください。

本学では、5号館というところに、ラーニングコモンズを新しく設置しました。ラーニングコモンズとは、学びの広場、学びの共有空間というような意味ですが、アクティブラーニングを可能にする場所です。3号館にある、学習支援センターのアクティブラーニングゾーンとともに、大いに活用してください。

このように、いろいろな学びの中で、知識を得ていきますが、学問の世界は奥深く、その面白さも是非味わってほしいと思います。「大学生になる」とは、そういうことなのです。

二つ目は、「学びの幅を広げること」の大切さです。

みなさんは、学ぶべき専門領域を決めて、つまり、学科を決めて入学されました。それぞれの専門領域について、これから深く学ぶこととなりますが、それは、専門職業人となるための大前提です。とともに、専門領域以外の学びも大切にしていきたいと思うのです。

社会がグローバル化していく現在、多様性（ダイバーシティ）への対応が必要です。そのとき、私たち自身が、多様な価値観と文化を学ぶこと、自分と価値観が異なる他者を受け入れること、そして議論することも必要になってきます。そのためにも、専門の狭い世界に自らを閉ざすことのないようにしなければなりません。多様性を受け入れるには、覚悟も必要ですし、寛容さ、心の広さも必要です。

つい最近も、ベルギーで、過激派組織 I S (イスラミックステート) によるテロがありました。連続テロにより、移民への反発から国民間で関係がギクシャクしつつあるとの報道がありました。寛容であることの難しさを示しています。

本学園は行動規範として学園訓を定めています。「感謝 生かされる心、 寛容 信じあう心、 互譲 たすけ合う心」ですが、この中の「寛容 信じあう心」について、あらためて考えてみてください。

以上、二つ目として、学びの幅を広げること、多様性を受け入れること、そのとき寛容が必要であること、について述べましたが、卒業後を考えても、さまざまな人と仕事をしていくことになります。そのときのためにも、自らが、幅広い視野、知識を持っていることが大切なのです。思考の幅を広げ、教養を深めるための努力を、在学中から心がけていただきたいと思います。

三つ目は、「学生生活を充実させる」ことの大切さです。

青春の時期は、可能性と未来に富む時期です。また、迷い、とまどい、悩みを多く持つ時期でもあります。自分とは何者かについてのアイデンティティを模索する時期でもあります。私は、ここまで、学ぶことを強調してきましたが、大学時代は、若さにあふれる時期です。また、夢や希望を持つ時期です。若さを発揮し、若者らしく、いろいろなことにチャレンジしてください。迷うこともよし、青春を謳歌することもよし、課外活動での目標をもった挑戦もよし、ボランティア活動等での地域の人たちとの交流もよし、です。大学でしか経験できないことに挑戦してください。在学中のさまざまな経験は、これから人生を送っていくうえでの宝物にきつとなります。卒業の時に、胸をはって学生生活を語れるよう、充実した時間を過ごしてください。

ここで、フランスの詩人ルイ・アラゴンの「ストラスブール大学の歌」という詩の一節を紹介します。

教えるとは 希望を語ること
学ぶとは 誠実を胸にきざむこと

という詩です。この詩がつくられた社会背景は省略しますが、教育のあるべき姿についての、心にしみる詩です。この詩は教員サイドでの希望を語っていますが、若者としての希望も含め、また考えてみてください。

もう一つ、大学生活の充実のためにも、大学時代ならではの、生涯の友人を得てください。友人は、利害関係でのつながりではなく、純粋なつながりです。私自身の友人を考えてもそう思いますし、私の教え子たちをみてもそう思います。彼女たちは、折に触れ語り合いながら、人生を共に歩んできているようにさえ思います。みなさんも、共に学び、共に経験するなかで、すばらしい友人を得ることができれば、とても幸せなことでしょう。

以上、「大学での学び方」、「学びの幅を広げる」こと、そして「学生生活を充実させる」ことの三つを心に留め、大学生活をスタートさせてください。

最後になりますが、在学中の二年間、三年間、四年間の間にも、社会はめまぐるしく変化していきます。選挙権年齢が18歳以上に引き下げられ、責任ある大人としての判断も求められます。その意味で、社会の動きにも敏感にアンテナを働かせて、認識を深めてください。

では、みなさんが、こころ豊かな、そして充実した学生生活を送られることを願って式辞といたします。

平成28年4月3日

兵庫大学・兵庫大学短期大学部 学長 三浦 隆則